

## 男子第一部

### 旭化成 A がダイコロに圧勝、齋藤新監督の門出を祝う十二連覇達成

連勝記録更新は固いと思われた旭化成 A が準決勝戦で思わぬ苦戦を強いられた。同じ九州の雄、九州電力に前半 2 対 0 でリードされ、連覇もここで潰えるかと思われたが、副将以下が踏ん張って代表戦に持ち込み、最後は大鋸選手が死闘に終止符を打つ。一昨年、昨年に続くダイコロとの決勝戦では、準決勝戦の鬱憤を晴らすかのように、中堅戦で早々と優勝を決め、結果 4 対 0 で圧勝。齋藤新監督の初陣を飾り、実に二十八回、十二連続優勝を果たす。

#### [ 第 1 回戦 ]

旭化成 A      5                      -      0      日本エースサポート

(先鋒)	木村 純	3 段	合せ技	松浦 靖浩	4 段
(次鋒)	西潟 健太	3 段	大外刈	合田 大二郎	3 段
(中堅)	田中 貴大	3 段	合せ技	中島 石積	3 段
(副将)	増渕 樹	4 段	⊖ (指導 3)	森上 友輝	2 段
(大将)	谷口 徹	3 段	体落	三浦 翔平	3 段

九州電力      4                      -      0      近畿通関

(先鋒)	山本 泰三	3 段	⊖ (指導 3)	鳥入 孝仁	3 段
(次鋒)	近藤 雅和	3 段	引分	山川 陽平	2 段
(中堅)	森 俊介	3 段	小外掛	浅見 友記夫	3 段
(副将)	尾本 裕也	4 段	⊖ (指導 3)	珠玖 龍市	4 段
(大将)	川波 慎太郎	5 段	⊖ (指導 3)	砂原 芳徹	3 段

ダイコク 3 - 0 日経サービス

(先鋒) 稲葉 将太 3段	横四方固	中野 哲也 3段
(次鋒) 谷本 義人 3段	引分	尾見谷 竜一 3段
(中堅) 合田 良太 3段	引分	森安 義次 2段
(副将) 宮下 和也 3段	縦四方固	折田 裕介 3段
(大将) 佐々田 裕良 3段	横四方固	森本 誠 2段

旭化成 B 1 - 2 新日本製鐵

(先鋒) 辻 玄太 3段	引分	松宮 広 3段
(次鋒) 千葉 大介 3段	袈裟固	森田 祥一 4段
(中堅) 西田 泰梧 2段	引分	吉永 慎也 4段
(副将) 出口 雄樹 3段	⊖ (指導3)	川端 恭平 3段
(大将) 野口 嘉明 3段	優勢勝 ⊖	齋藤 俊 3段

[ 準決勝戦第1試合 ]

準決勝戦第1試合は九州勢同士、まれに見る白熱した接戦を展開した。旭化成 A は齋藤新監督の采配の下、連勝記録更新中に意欲を燃やす。一方、九州選手権大会において塘内、大鋸の強豪を降す大殊勲を上げた 81kg 級の山本を擁す九州電力が、余勢を駆って3年ぶりの決勝戦進出を目指す。両雄の息詰まる熱戦に会場は固唾を飲んで見詰めた。

旭化成 A - 2 九州電力

代表戦

(先鋒) 谷口 徹 3段	袈裟固	森 俊介 3段
(次鋒) 西潟 健太 3段	引分	近藤 雅和 3段
(中堅) 木村 純 3段	優勢勝 ⊖	川野 達也 3段
(副将) 大鋸 新 5段	反則勝	山本 泰三 3段
(大将) 増淵 樹 4段	⊖ (指導3)	川波 慎太郎 5段
(代表) 大鋸 新 5段	反則勝	川野 達也 3段

準決勝戦第1試合は九州勢同士、まれに見る白熱した接戦を展開した。齋藤新監督の初陣を落とす訳にはいかない旭化成Aは、連覇記録の更新に執念を燃やす。一方、九州選手権大会において塘内、大鋸の強豪を降す大殊勲を上げた81kg級の山本を擁す九州電力が、余勢を駆って3年ぶりの決勝戦進出を目指す。両雄の息詰まる熱戦に会場は固唾を飲んで見詰めた。

先鋒戦。旭化成A谷口は81kg、対する九州電力森は120kg。実に40kg近い体重差の両者であるが、試合開始から互いに左組みにがつぷり組み合う。

その直後、組み負けたかに見えた森が左巻込に攻めようとして左腕を抱え込みに入る。それを谷口は敏感に反応して右に回りこもうとする。ところが、森はその瞬間、両腕で谷口の左腕を抱え込んだまま左に振ると、左腕の極まった谷口は堪らず畳に伏す。森はそのまま両腕で極めながら谷口を裏返し、腕を抱え込んだまま谷口に押し掛かかる。31秒に崩壊装固（後装固）の宣告。谷口は抵抗を試みるが果たせずそのままブザー。

九州電力、幸先良く先制点を奪う。

次鋒戦。先制点を奪われた旭化成Aの次鋒、長身の新人西潟は勢い込んで左組から右組の九州電力近藤を圧迫するが、引き手は絶えず近藤に制せられたため、強引な大外刈も効無し。

近藤は無理をせず守勢で終始するも、タイミングをみて引き手十分の右組み手から深く体落、背負投に入り、審判に好印象を与え指導を回避。

結局、両者指導1のみで時間となり、引分ける。

中堅戦。何とかタイに持ち込みたい旭化成A木村は得意の右組手を窺うが、前半戦のリードを守り抜きたい九州電力川野は、容易に引手を許さず木村の攻撃を巧みに封じる。

中盤、攻めあぐねる木村は焦りから遮二無二攻撃に入り、1分55秒、場外際で右小外掛から体を預けるところを川野にうまくかわされ、自爆した形となって畳に落ちて技あり。

逆にリードを広げられた木村は猶も攻撃を重ねるが、握った左引手が袖口となり2分47秒袖口注意を受ける。終盤は木村の攻勢で川野は指導2を受けるが、木村の反撃もここまで。

旭化成Aは絶体絶命のピンチのまま副将戦に突入する。

副将戦。九州選手権大会では判定で旭化成 A 大鋸を降した九州電力山本であったが、ルールの異なる本大会では、後の無い大鋸の圧力の前にたじろぎ、防戦一方となって中盤までに指導 2 まで受ける。

そして迎えた 2 分 16 秒、巨漢大鋸の圧力にひざまずき、思わず大鋸のズボン握って防ぐ。これが新ルール適用となり反則負を喫す。

大将戦。猶も 1 点リードを許す旭化成 A 増淵は、なんとか劣勢を逆転すべく試合開始直後からフル回転。共に左組の九州電力川波はこれを巧みに捌き、増淵の猛攻をかわすが守勢に回り 1 分 3 秒に指導 1 を受ける。

その後は、川波も前に出て増淵に拮抗する。結果、互いに技の攻防が止んだ 2 分 4 秒、両者に指導。終盤、再び激しい攻撃を再開した増淵の前に、川波は守勢を余儀なくされ、3 分 27 秒指導 3 を受ける。

旭化成、辛うじて引分に持ち込み、勝負は代表戦にもつれ込む。

代表戦。旭化成 A 大鋸対九州電力川野の代表戦。左右のケンカ組手、組み合わない両者に 32 秒、1 分 19 秒、2 分 12 秒と連続して指導が続き、両者後が無くなる。

終盤に入ると、体格で勝る大鋸が組手不十分ながらも前に出、川野はその勢いに押され後ろに退き始める。遂に、残り 29 秒審判協議を経て、川野に反則負の宣告。

旭化成 A 窮地を脱し、32 回連続の決勝戦進出。健闘の九州電力は最後の最後に涙を飲む。

### [ 準決勝第 2 試合 ]

準決勝戦第 2 試合は、3 年連続決勝戦進出を目指すダイコロ対 4 年ぶり決勝戦を狙う新日本製鐵の関西勢同士の対戦。この試合も抜きつ抜かれつの好勝負を展開した。

ダイコロ                      3                      -                      2                      新日本製鐵

(先鋒) 谷本 義人 3 段	払巻込	森田 祥一 4 段
(次鋒) 佐々田 裕良 3 段	⊖ (指導 2)	吉崎 晃 2 段
(中堅) 稲葉 将太 3 段	⊖ 優勢勝	松宮 広 3 段
(副将) 合田 良太 3 段	優勢勝 ⊖	吉永 慎也 4 段
(大将) 宮下 和也 3 段	⊖ 優勢勝	川端 恭平 3 段

先鋒戦。ほぼ同じ体格の大型選手同士。新人ダイコロ谷本がベテラン新日本製鐵森田に挑む。

序盤から左組の森田は姿勢良く組み、右組の谷本は腕を突っ張って防御から入る。森田は幾度か払巻込、谷落、小外掛で谷本を揺さぶり、迎えた2分20秒、左組から右腕で谷本の右腕を抱え込み、大外巻込気味に斜め前方に体を預け、最後は払いながら体を捻って谷本を背中から叩きつける。森田の一本勝で新日本製鐵が先制する。

次鋒戦。体格で大きく勝るダイコロ佐々田が左組で序盤から吉崎を圧迫するが、吉崎も姿勢良くこれに対す。

しかし、佐々田は徐々に奥襟を取って上から吉崎を押さえつければ、吉崎は守勢を余儀なくされ1分48秒に指導1。

その後も、上からの圧力を強める佐々田の前に為すすべを欠く吉崎に2分53秒指導2。終盤も見ろべき攻防無く時間。ダイコロ、一矢報いる。

中堅戦。81kg級の業師ダイコロ稲葉に、90kg級の新日本製鐵新人松宮が挑む。右組同士の対戦は、稲葉が激しく動き、試合の主導権を握る。

中盤の1分48秒には、稲葉は松宮を前に引き出して、右組から低い姿勢の左一本背負投で松宮を転がして、技ありを奪う。

稲葉は終盤の松宮の反撃で残り9秒に指導1を受けるが、その場面以外は危なげなく時間を稼ぐ。ダイコロが逆転。

副将戦。右組同士ながら身長差で20cm近い両者の対戦。長身ダイコロ合田は新日本製鐵吉永を攻めあぐね、吉永も合田を持て余し、48秒、2分58秒、共に指導2が与えられる。

ところが、終盤に合田が吉永の奥襟を深く押さえ、一本背負投に入る姿勢の吉永に強引な大外刈を仕掛けると、吉永は待っていたかのように右腕で合田の背中をすくって返すと、合田は思わず横転して有効となる。

新日本製鐵、内容差リードの再逆転を果たす。

大将戦。抜きつ抜かれつの熱戦の雌雄を決する大将は共に新鋭同士。体格もほぼ同じの左右のケンカ組手の決戦。

追うダイコロ宮下は果敢に攻め、守りたい新日本製鐵新人川端は寝技で時間を稼ぐ。宮下が奥襟深く握って盛んに強引な大外刈、払腰で攻める。

極端な左変形の宮下は、1分47秒、前と見せ掛けて後ろへ谷落で体を捨てて有効を奪う。逆転を許した川端は反撃に転じるが、今度は宮下が寝技で時を稼ぐ。

終盤は、攻撃は最大の防御とばかり左変形から強引な払腰を繰り出す宮下に、川端は後れを取り2分36秒指導1が与えられる。その後も、組み際に技を繰り出す宮下は川端に反撃の暇を与えず試合をリード。宮下の頭脳的とも言える試合運びでダイコロが堂々3年連続の決勝戦進出を果たす。

### [ 決勝戦 ]

男子第1部の決勝戦は3年連続の対戦となった。準決勝戦を辛うじて制した旭化成Aが連覇記録を更に伸ばすか、50回記念の大会でダイコロが悲願の初優勝を果たすか、手に汗握る戦いとなった。

旭化成A      4                      -                      0      ダイコロ

(先鋒)大鋸 新	5段	☉ (指導2)	合田 良太	3段
(次鋒)塘内 将彦	5段	袖釣込腰	稲葉 将太	3段
(中堅)増淵 樹	4段	合せ技	谷本 義人	3段
(副将)西潟 健太	3段	引分	佐々田 裕良	3段
(大将)木村 純	3段	横四方固	宮下 和也	3段

先鋒戦。大型選手同士の対戦。共に右組手から旭化成Aの大鋸が強く引き付ける。ダイコロ合田はこれを嫌い後ろへ退き気味となる。果たして1分25秒に合田に指導1。その後も大鋸が組み勝ち、大外刈で合田をぐらつかせる。合田は組み際に長身を利用して散発の大外刈を仕掛けるが、大鋸は余裕を持って残す。終盤になって守勢が目立ち始めた合田に3分18秒、2度目の指導が来る。旭化成、順当に先取点を稼ぐ。

次鋒戦。共に81kg級同士、ベテランと新鋭の対戦。右組の両者は得意の組手を求めて激しい攻防を重ねる。一進一退を繰り返した後の3分21秒、旭化成A塘内は、ダイコロ稲葉の右袖を左で逆手に握り、右手で大きく稲葉の背中を肩越しに掴むと同時に得意の左釣込腰に着手。塘内は左足から跳び込むや、次は右手を離して稲葉の伸びた右釣手を下から握り、両手で稲葉の右腕を制しながら担ぎ上げると、虚を衝かれた稲葉は塘内の肩越しに大きく弧を描いて背中から落下。塘内鮮やかな大技でリードを広げる。

中堅戦。体重で劣る旭化成 A 増淵であるが、左組のダイコロの新人谷本を左から組み止め、姿勢よくチャンスを伺う。

増淵、間もなく場外際に下がった谷本を更に追い込みながら左小外掛で攻めると、谷本は場外遠くに倒れ込み、開始 39 秒の技あり。

そして、試合再開後の 48 秒に、増淵は左組みに行くと見せて、体を沈めて右の一本背負投で担ぐと谷本はごろりと転がる。技あり。合せ技一本で、旭化成 A が早々と優勝を決める。

副将戦。長身の両選手は共に左組で奥襟を握ってがっちり組み合う。しかし、力勝負に終始し、両者共効果技が出ず。残り 13 秒にダイコロ佐々田に首抜き指導 1 が与えられるも、見せ場のないまま時間となり引分ける。

大将戦。左右のケンカ組手。体重で勝る旭化成木村 A は、右組でダイコロ宮下を組み止め圧力を掛ける。

開始 38 秒、木村は左へ右技に行くと思わせて、右足を飛ばして出足払で宮下を転がし、伏せたところを横四方固で 25 秒間押え込む。

結果は大差を付けての旭化成 A の勝利。旭化成 A、28 回目の優勝、連勝記録を 12 に伸ばす。

尚、男子第 1 部は、初戦敗退の 4 チームによる抽選の結果、近畿通関と日経サービスの 2 チームが第 2 部に回るようになった。